

## 1. がん地域連携パス

外科診療部長 まちき ゆういち 待木 雄一



当院は、平成18年からがん拠点病院として登録され、桐生地域のがん診療の拠点病院としての役割を担っています。厚生労働省は我が国に多いがんについて、がん拠点病院と地域のかかりつけ医との間の連携を密にする目的で、地域連携クリティカルパスの整備を進めました。その一環として当院でも平成23年から5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝臓がん）においてがん地域連携クリティカルパスが導入されました。

今回は「がん地域連携クリティカルパス」についてお話しさせていただきます。クリティカルパスとは、治療計画書の一種で、医療チーム（医師、看護師、コメディカルスタッフ）が実践する治療・検査・看護・処置・指導などを、時間軸に沿ってまとめたものです。この手法は、医療の効率化や質の管理、チーム医療の推進、インフォームドコンセントの充実、医療事故の防止などにおいて有用であり、多くの医療施設において用いられています。当院では、クリニカルパスまたはパスと呼んでいます。

通常のクリティカルパスは、主に入院中に使用される治療計画書ですが、がん地域連携クリティカルパス（以下がん連携パス）はがん患者さんの退院後の治療計画書になります。がん連携パスを活用し、地域のかかりつけ医と当院の医師が患者さんの治療経過を共有することによって、患者さんの立場に立った安心かつ質の高い医療を提供することができます。がん以外では脳卒中連携パスが既に使われています。

実際には、がん患者さんが当院で手術など専門的な治療を受けた後に、治療の計画に基づき、その後の診察と薬の処方などは地域のかかりつけ医でもらい、数か月に1度の節目の診察・検査は当院で受けるという流れになります。現在は17の医療機関にご協力いただいています。

患者さんにとっては、以下のようなメリットがあります。

- ・患者さんの情報は、関係する医療機関で共有しますので、同じ治療方針のもとで、患者さんは必要な治療を適切な医療機関においてスムーズに受けることができます。
- ・術後の経過は、ご自宅近くの医療機関を受診していただけますので、通院時間及び診察の待ち時間の短縮ができます。
- ・複数の主治医のもとで診察を受けていただくことで、がん以外の病気や、既にかかっている病気に対しても、身近に相談することができます。
- ・治療計画や経過が把握しやすくなります。
- ・重複した検査・投薬を避けることができます。

がん連携パスは、患者さんの症状などに合わせ、活用する方がよいと考えた場合にお勧めしています。途中で変更・中断することもできますし、利用しないこともできます。ご不明な点がございましたら、遠慮なく担当医にお尋ねください。



お問い合わせ先：相談支援センター（平日 9:00～12:00、13:00～16:00） ☎ 0277 - 44 - 7165

## 2. がん治療における病院薬剤師のかかわり

### がん薬物療法認定薬剤師

ほそや じゅん  
細谷 潤

近年、抗がん剤は、新薬が次々と登場し、その使い方や組み合わせが非常に複雑になってきています。また、抗がん剤は、非常に強くて怖いイメージもありますが、決まった方法\* で使用すれば、効果が最大限発揮され、副作用をできるだけ軽減することができます。

当院では、抗がん剤治療を受ける全ての患者さんに、安全に安心して確実に化学療法が行えることを目標としています。薬剤部は、その専門性を生かし、様々な場面でがん治療を受ける患者さんに対し医師、看護師等とともにチームでサポートしています。



\*：「レジメン」といい、抗がん剤の種類、投与量（身長・体重・腎機能で異なってきます）、投与速度、投与間隔、投与前後の副作用を軽減する薬の使い方、などの手順を決めたものです。

薬剤師がかかわる内容は下記のとおりです。

1. 使用する抗がん剤の効果や主な副作用を患者さんに説明します。また治療開始後は、発現した副作用の有無を確認し、早期に対処できるように医師・看護師等と連携を取ります。
2. 医師の治療計画に基づき、抗がん剤の種類、スケジュール、使用日数、量などを確認します。
3. 非常に清潔な環境で抗がん剤注射の調製と準備を行います。
4. 医師に支持療法（副作用を軽減する治療のこと）の提案を行います。
5. 院内で適切に化学療法が行われるよう、各診療科と協議し、レジメンの管理・運営を行います。

副作用は出来るだけ早く対処することで、症状が重くならず済みます。

抗がん剤について不明なことや不安なことがありましたら、早めに薬剤師にご相談ください。



【安全キャビネット下での抗がん剤調製】